

令和3年度（2021年度） 東保育所拠点事業報告

《東保育所》

I. 事業総括

- 一人ひとりの子どもの育ちを支える保育に努めました。
(現在をもっともよく生き望ましい力の基礎を培う保育を目指しました。)
- 保護者の子育ての支えとなって、子育て支援に努めました。
(保護者の意向を受け止め、子どもと保護者の安定した関係に配慮し、援助することを目指しました。)
- 子どもと子育てにやさしい地域作りに努めました。
(地域とのふれあいや連携を図ることを目指しました。)

II. 事業目標に対する評価

1. 利用者サービスの充実

KGI(最重要目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	非認知能力の育成	—	—

保育所保育指針に基づいて保育を行ってまいりました。これまでの「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の各領域に沿って、発達に応じたかかわりを行い、養護と教育を一体的に展開し、保育士が子どもを一人の人間として尊重し、深く愛し、守り、支えてまいりました。また、指針に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を目指し、認知的能力だけではなく非認知的能力を高めるために「知識及び技能の獲得」「思考力、判断力表現力などの基礎」「学びに向かう力、人間等」を育む保育に努めました。

2. 地域社会との関係性強化

KGI(最重要目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	地域との関係性強化	—	—

コロナ禍の為、地域の方々との交流は感染対策に合わせて行事を縮小して進めてまいりました。地域の方によるわらべうたやお茶会、お話し会のボランティア交流は貴重な経験の場であり、できるだけ体験できるよう努めてまいりました。また、地域へはSNSやマチコミ、ICT化の導入を利用し、保育所の様子を定期的に発信することで、地域の保育所として関係性のつながりを継続できるよう努めました。

3. 生産性の向上

KGI(最重要目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	人時生産性	1.95 千円	2.12 千円
	労働生産性	3,720 千円	3,629 千円

人時生産性達成率 108%、労働生産性達成率 97%。

今後子ども数の減少等を見据えると、職員数を増やさないなかで、より良い保育を実施していくためには、業務効率をあげていくことが必要となります。発達促進児や発達障害児保育を担う中、その保護者への子育て支援も重要視されております。

III. 計画事業の総括

1. サービス事業への取り組み

子どもたちの心の力を育むため、安心感と信頼感を持って探索活動ができるよう努めてまいりました。特に乳児期は非認知能力を担う大切な時期でもあり、保育者が愛情を持ってより丁寧な保育に心がけ、基本的信頼感や自己肯定感が育まれる保育を目指してまいりました。幼児期は「やればできる」を目標にチャレンジタイムを導入し、保育者が傍で肯定的な言葉かけをしながら進めたことで、年長児は全員が一人ひとりの目標を達成し、「やればできる、やりぬく力」を培い、大きな自信へと繋げることができました。

コロナ禍の為、止む無く行事の中止や縮小することもありましたが、感染対策を講じて工夫しながら保護者の方に子ども達の成長した姿を見ていただき、成長の喜びを共有できるよう取り組んでまいりました。また、定期的な個人懇談を実施して、子育て支援も行ってまいりました。

第三者評価も受審し、サービスの向上に努めました。

2. 人財育成への取り組み

今年度もコロナ禍の為、外部研修はWeb 中心の開催となりました。オンライン研修は、職員が幅広く受講できる利点があります。職員自身が意欲を持って学ぶ姿があり、成長へと繋がる研修を積極的に受けることができました。それにより、職員全員で学びを共有することもでき、同じ気持ちで保育を実践研鑽できる研修となりました。園内研修は毎月計画的に取り行い、職員一人ひとりが講師となって知識の共有を図りました。また、それは保育を語る場にもなり、保育の資質向上にも繋がっております。

定期的開催されるマネジメント研修は、係長も受講する事で職員育成への方向性を示す糧となりました。絶対ルールを毎日唱和することで、職員が絶対ルールを遵守する意識統一にも繋がっております。

3. 地域との関係強化への取組み

コロナ禍の為、十分な交流はできませんでしたが、感染対策を講じてボランティアを受け入れ、創意工夫しながら交流活動ができるよう取組んでまいりました。また、SNS やマチコミを利用した発信も定期的に行い、地域の中の保育所としての繋がりを担ってまいりました。12月以降はICT化も導入され、より一層手軽に発信できるようになりました。

4. 生産性向上への取組み

- ・ICT化の導入による間接業務の削減による直接保育業務の増加を目指してまいりましたが、補助事業との兼ね合いで12月からのスタートとなりました。間接業務の時間短縮には至りませんでした。多種の機能があり全職員が使いこなせるように園内研修で周知し、4年度がスムーズにスタートする為の準備期間となりました。
- ・東保育所は発達促進児や障害児保育事業があり、環境作りが重要となります。
- ・リフレッシュタイムは定着しており、時間配分をして職員同士が声を掛け合い、全員が休憩できるようにしております。

5. 施設整備への取組み

保育環境を整える為、計画通りすべて実施致しました。固定遊具も腐食部分を修繕して安心安全に遊べるように致しました。計画外の整備として、新型コロナウイルス対策の補助事業により、補助金を利用し感染予防対策設備や感染予防物品を購入し感染予防対策に取り組みました。

令和3年度に実施した個別の事業の詳細及び成果等は以下の通りです。

【サービス事業】

1. 利用者（入所者）状況

(1) 利用率・稼働率

(単位:人、%)

定員数	計画数	実績	利用率・稼働率差異
60	67	68	113.3

(2) 利用者構成状況

(単位：人)

年齢別クラス	計画数	実績	差異
0歳児	11	11	0
1歳児	10	10	0
2歳児	11	11	0
3歳児	8	9	1
4歳児	17	17	0
5歳児	10	10	0
計	67	68	1

2. 実施サービス

(1) サービス事業

<養護>

実施事業の成果、評価
<p>○生命の保持</p> <ul style="list-style-type: none">・0歳児－清潔で安全な環境を整え、子どもの生理的欲求の充実に図りました。・1歳児－生活リズムが整うように配慮してまいりました。・2歳児－生活や遊びの中で自我が育つような関わりを持ち、進級へ向け片付けや着脱など個人差はありますが、簡単な身の回りのことができるようになりました。・3歳児－基本的な生活習慣を身に付けられるように援助しました。・4歳児－運動と休息のバランスと調和を図りました。・5歳児－健康、安全への意識の向上へと努めました。・乳児クラスは後半から毎月のように0歳児の入所があり、安全な生活環境を確保するため話し合いを重ね、1歳児は発達に応じて0歳児クラスと2歳児クラスに分れて生活をするにより、安心して過ごせる環境を整えました。・幼児クラスは、出来たことを肯定的に認めていくことで自信に繋げていき、生活習慣の確立に努めてまいりました。 <p>○情緒の安定</p> <ul style="list-style-type: none">・0歳児－一人ひとりの子どもの発達過程を把握し応答的なふれあいや言葉かけにより信頼関係を築きました。・1歳児－特定の保育士との信頼関係が更に深まり、愛着関係が育みました。・2歳児－子どもの気持ちを受容し共感しながら継続的な信頼関係を築きまし

た。

- ・ 3歳児－主体的な活動を促す環境を構成し、自発性や探索意欲が高まるよう働きかけました。
- ・ 4歳児－多様な経験を通して自己肯定感を育み、他者を認め一緒に活動する喜びを知ることができました。
- ・ 5歳児－様々な経験を重ね、心身の調和と安定により自信を持って取り組める力がつきました。
- ・ 乳児期には絵本やわらべうた等心地よい応答的なかわりや、担当を決めて個別的に丁寧な対応をしていくことにより、安心感や信頼関係を構築して情緒の安定を図り、個々の自由な探索活動へと繋げてまいりました。こうした心の基礎が幼児期にも発揮され、特に年長児は個々の目標を持って挑戦し、最後まで頑張る気持ち、やりぬく力で全員が目標を達成したことは、就学へ向けて大きな自信となりました。

<教育>

実施事業の成果、評価

○健康

- ①年齢や発達に応じた運動遊びを計画して健康な体作りを実施しました。体づくり計画に基づき、基本的な運動機能や体力、体幹の向上を図りました。
- ・ 0歳児－安全な環境の中で保育者に見守られながら、ハイハイ・伝い歩き・歩くなど基本的な運動を通して体を動かし、探索活動へとつなげました。
 - ・ 1歳児－ソフト巧技台や戸外の固定遊具で歩く、よじ登る、くぐる、跳ぶ等の基本的な運動あそびを経験し、夏には裸足で泥んこ遊びを通して手や足の指先を意識した遊びも計画的に行いました。
 - ・ 2歳児－巧技台や平均台、戸外の固定遊具をよじ登る、降りる、つかむ、渡る経験を重ねました。また、園庭で走る、跳ぶなど全身を動かして遊ぶことで体力作りへ努めました。
 - ・ 3歳児－基本的な運動(登る、降りる、ぶら下がるなど)が発達するため、それに合った活動・運動を取り入れました。また、集団遊びを通して走る、止まるなどの機能の習得にも取り組みました。
 - ・ 4歳児－縄跳びなど、リズム感のある運動も取り入れました。リトミック遊びを毎日行うことでリズム感や音によって動くこと、表現する楽しさを経験することができました。
 - ・ 5歳児－基本的な運動能力を身につけ、力いっぱい走ったりと活動が広がり、登り棒や逆上がり、ホッピングなど難しい事にも挑戦し自分の目標を達成しました。

・乳児は体幹につなげるリズム体操、3歳以上児はしゃきつと座ろう体操を毎日継続して行い体幹作りに努めました。

・年長児は、いわみ西保育所にて専任の運動講師よりマット運動など基本的な運動の指導を受け（奇数隔月）、日常の保育の中で実践していきました。

②自然の中での遊びを体験する

・自然とのふれあいを通して、豊かな感情・好奇心・思考力探究心を培ってまいりました。

・乳児クラスは、幼児クラスに手を引いてもらい散歩に出かけ、心地よい自然の中であぜ道を歩いたり土手をよじ登ったりと、全身を使った遊びを通して心も体も元気になりました。秋の散歩では、木の実や草花を集めてままごとや製作遊びに使い、自然にふれる遊びをたくさん経験することができました。

・川遊びは日貫川が予定日に増水していたので、深篠川のみとなりましたが、川を歩くことはバランス感覚を養います。また、水の冷たさや川の流れる音、小動物の発見や捕える工夫など探究心と、五感をフルに使った遊びを展開することが出来ました。

・日貫の金毘羅山の山登りは、山道を歩く経験が少ない子ども達にとって貴重な体験となりました。

○人間関係

・0歳児－担任との深い関わりの中で、愛着心の形成を進めていきました。

・1歳児－担任との関わりの中で、周りの人への興味関心を広げることができました。

・2歳児－自己主張を認めながらも、友だちとの関わりを大事に保育してまいりました。

・3歳児－友だちと過ごす楽しさを感じると共に、関わり方も学べるよう取り組みました。

・4歳児－友だちとのより深い関わりを持ちながら、協調性や思いやりが育つよう一人ひとりを認めながら関わりました。

・5歳児－主体的な遊びの中から、自立心を育て、自分で考え自分で行動出来る自信を身につくよう肯定的な言葉かけを大切にしました。

・5歳児はチャレンジタイムに個々の目標をもって挑戦する時間を設け、保育者が傍で肯定的な言葉かけや励ますことでやる気が育ち、目標達成に繋がりました。それにより、自信を持ってできない友だちに教えてあげる優しい心も育ちました。

・新入児－新しい環境の中で安心して過ごせるように一人ひとりにゆったりと関わりました。

*異年齢児交流を大事にする

・子ども同士の関わりを楽しいと感じられるように、職員間で話し合い、連携して交流の場を設けました。

・3歳未満児：幼児クラスの活動(色水や水遊び)の中に入り、大きい子の真似をする事で、遊びの活動を広げ挑戦したい気持ちを育みました。

・3歳以上児：遊びを通して一緒に過ごす中で、小さい子に対する思いやりや優しさを育みました。また、当番制で給食のお手伝いや食べるお世話の経験をする事で、自分に対する自信が持てるよう働きかけました。

・1月後半から新型コロナウイルスがまん延した為交流は中止としましたが、この異年齢児交流の積み重ねは、子ども達の心の育ちへとつながりました。

○環境

・0、1歳児—安心感の中で、探索活動を十分に楽しみ色々な玩具を自分で見つけて遊べるようになりました。

・2歳児—好奇心を高めるような環境を準備し、様々な活動を経験させることができました。自分の持ち物や置き場所を覚え簡単な身の回りのことができるようになりました。

・3歳児—身近な自然に気が付けるよう、四季を通して(小動物・草花・木の実・紅葉・氷作り・雪遊び)保育士が様々な発見や遊びを共有、共感しながら子ども達と積極的な関わりを持ちました。子ども達自身の気付きも多く、自然に心を動かしながら、関心を持って遊べるようになりました。

・4歳児—社会事象への関心が持てるよう関わりを深めました。その中でも、トウモロコシを種から育て、ポップコーン作りまでの工程を体験してポップコーン屋さんを開店したことは、自分たちだけでなく保育所のみんなにも食べてもらえた喜びや達成感にもつながりました。1年を経て多くの発見や感動などいろいろな感情を味わうことができました。

・5歳児—社会事象や自然事象へのさらなる関心が高まるような活動を取り入れました。山登りや川遊び、散歩などを体験しながら身近な季節の変化に気付き感性が豊かになりました。

・4、5歳児は、外国人講師を招いて英語あそびを楽しみました。英語あそびを通して異文化にふれる経験は子ども達にとっても興味深く感じているようです。4歳児は個々の発達により、難しく感じる児もいるので無理強いせず、雰囲気を楽しめるよう関わりました。

・お茶会では、静の活動の中で物を大切にする心や友だちを気遣う心、決まりを守る体験を通して心の成長を育みました。

○言葉

生活の中での言葉によるやり取りや聞く力、伝える力の取得、文字や数の理解

に向け計画を実行しました。

- ・ 0歳児－保育士の言葉かけや読み聞かせの中で、安心感に包まれながら、身近な人とのつながりを深め、発音や喃語の意欲を育てていきました。
- ・ 1歳児－読み聞かせを通して、身近な人と触れあい、心地よさを感じながら言葉の理解へと繋げました。
- ・ 2歳児－子どもたちからの語りかけを大切に受け止め、人とのやり取りを深めながら言語の獲得へと繋げていきました。
- ・ 3歳児－絵本を通して、いろいろなイメージを広げ、ごっこ遊びや友だちとのやりとりを楽しみ、人間関係の広がりにつなげました。
- ・ 4歳児－生活や遊びの中でのやり取りを繰り返し、会話を通して友だちとあそぶことの楽しさを感じるようになり、つながりを深めました。
- ・ 5歳児－気になることを図鑑で調べたり、本を通して文字や数に興味や関心を持ち、いろいろな知識を得ようとする力を育みました。
- ・ 各年齢に合った絵本の読み聞かせを行いました。親子読書の推進に努めました。
- ・ 喃語時期から語りかけを通して、周りの人との関わりを深め、言葉の獲得へと繋げました。
- ・ 言葉のやりとりが安心してできるように、保育者は聞くこと、待つことを心掛け、一人ひとりに適した支援を行っていきました。

*講師を招き、年齢に合ったわらべうた遊びを教えてもらい、各クラスで実践しました。年3回の予定でしたが感染防止対策の為2回の実施となりました。わらべうた遊びは、季節感もあり繰り返しの言葉は心地よく子ども達の心に入っていました。普段の絵本の読み聞かせの前などに活用していきました。

○表現

- ・ 自由な表現と豊かな感性を育む保育を目指しました。
- ・ 0、1歳児－身近なものから、感性が育つような関わりを持ちました。
- ・ 2歳児－身体機能を使つての表現遊びをしっかりと経験できるよう努めました。
- ・ 3歳児－自分の感じたイメージを素直に表現できるような場所や環境を提供しました。
- ・ 4歳児－豊かな感性の育ちを援助し、自分なりに表現する喜びが感じられるようにかかわりました。
- 5歳児－自分らしい表現ができると共に、他者と感動の共有ができるように計画に沿って実施しました。お楽しみ会では自信を持って、のびのびと自分を表現することができました。
- ・ 乳児期は、保育者の関わりが重要なため、保育者自身も表情豊かに関わるこ

とを心がけました。

* 専門講師によるアートデー(絵画・造形製作)を12回に分けクラスを決めて(2～5歳児)開催しました。

・各年齢や季節に合わせた様々なアート活動(絵画・造形・感触遊び)を通して表現力や感性、創造力を養いました。また、職員にとっても学びとなっております。

○食育活動

① 毎日の給食をしっかりと食べる。

・調理士より毎日の献立内容を伝えてもらったり、具材当てクイズ等の取り組みによりいろいろな食材に興味を持ち、食への興味や関心を高めました。

・幼児クラスは、しっかり身体を動かして遊ぶことで空腹感を持たせ、食欲増進を図りました。

・乳児は、安心できる雰囲気づくりに心がけ、自分で食べようとする意欲を大切に言葉をかけてまいりました。

② 食べることの大切さやマナーを身につける。

「年間食育計画表」に基づき、各年齢に合った食やマナーの取り組みをする。

・0歳児—安心できる雰囲気の中で、自分で食べようとする意欲を育みました。

・1歳児—いろいろな食材に興味を持ち、楽しみながら食べる事ができるように言葉をかけていきました。

・2歳児—励ましたり褒めたりして、スプーンやフォークを使って自分で食べることを促していきました。

・3歳児—椅子に座って食べることや、スプーンやフォークの正しい持ち方をしっかり行うことで箸へと移行していきました。また、何でも食べられるように励ましていきました。

・4歳児—友だちと楽しみながら、箸を使って姿勢よく食べるよう促しました。苦手なものも食べられるように言葉かけをしていきました。

・5歳児—楽しい雰囲気の中で、正しい姿勢や箸の使い方、食事のマナーを身につけていけるよう見本を示したり声をかけていきました。何でも食べようとする気持ちを大切に、キラキラタイムで時間を決めて味わって食べることに集中できる時間を設けました。就学に向け、時間内に食べられるように促しました。

・給食委員会で食の取り組みやマナーについての話し合いを持ち、職員間で情報共有をして取り組みました。

・調理担当が食事のマナー・スプーン、お箸の持ち方の指導を定期的に行いました。(5歳児…箸検定の実施をして正しい箸の持ち方を意識できるよう努めました)

③野菜作りを通して収穫する喜びや食材を使って季節や行事、各年齢に合ったクッキングを計画的に行いました。

- ・年間食育計画表をもとに年間を通して年齢別の活動を実行しました。
- ・コロナ禍の為、計画していた祖父母と苗植えやJ Aの芋苗植えはできませんでしたが、保育者と一緒に夏野菜・さつまいも・冬野菜の苗植えやお世話をして、初めて収穫した日の喜びや採りたて野菜の美味しさを共有しました。
- ・地域に出かけ緑風園の皆さんと芋掘りを体験もできました。
- ・コロナ禍の為、野草茶やまきもち作りなど地域の方と一緒に食体験をする事はできませんでしたが、職員と一緒に野草を摘み、野草茶やまき餅作りを通して、食べられる野草もあることを知り、生きる力に繋がる経験ができました。
- ・季節や行事に合わせ、今は懐かしい梅干作りやうどん作り、お正月の餅つきは杵や臼を使って行いました。
- ・こうした様々な食の体験を通して、食への関心を高めることができました。

3. 人員体制の状況（常勤換算）

（単位：人）

役職名	計画		実績		差異	
	正職	非正職	正職	非正職	正職	非正職
所長	1		1		0	
主任保育士	1		1		0	
保育士	5	8 (7.1)	5	8 (5.5)	0	0
子育て支援員		1 (1.0)		3 (2.6)		2 (1.6)
保育補助		3 (1.8)		1 (0.2)		-2 (-1.4)
調理員	1	4 (1.4)	1	4 (1.4)	0	0
環境整備員		3 (0.3)		3 (0.4)		0
計	8	19 (11.6)	8	19 (10.1)	0	0 (+0.2)

障がい児保育事業の人員配置もあり、0歳児の入所が重なる後半には常勤保育士換算数に満たなくなる為、保育補助員2名が子育て支援員を受講し、後半の人員体制を整えました。（子育て支援員は保育士1と換算される）

【人財育成事業】

(1) 事業所内研修

実施した研修	対象者	参加者数	実施した内容・成果等
調理担当者研修	調理師 調理員	2名	・調理技術の向上を図り、実習メニューは献立へと反映しました。

救急法講習会	全職員	19名	・パートを含み全職員で身近な救急法はシミュレーションを交えて学び、緊急時の対応について共通理解を得ることができました。
防犯訓練	全職員	13名	・新型コロナ感染対策で中止となりましたが、通報装置の点検時、通報訓練をしたことや職員間でシミュレーションをして合言葉や職員の動きを確認しました。
年齢別、主任、調理師話し合い（隔月）	全職員	13名	・保育所間で情報共有を行い、食育活動・プロジェクトによる体幹について共通意識をもって取り組むことができました。
幼児教育センター出前講座	全職員	7名	・幼児教育センター竹岡氏より、保育要録の書き方や小学校との連携についての学びとなりました。

(2) 事業所外研修（外部派遣研修）

実施した研修	対象者	参加者数	実施した内容・成果等
邑智郡保育研究会			
邑智郡保育研究会 総会 記念講演Ⅰ	全職員	12名	・山田真理子氏による、年齢に応じた発達と関わりについて学び、保育実践に活かしました。
研究大会 講演Ⅱ	全職員	12名	・山田真理子氏による、子どもの発達とメディア環境を学び、視力や発達への影響など保護者へ情報発信しました。
実技研修 ロケットクレヨン	保育士	12名	・ユーチューブにより繰り返し視聴できたため、踊りのレパートリーも広がり、行事や保育実践に役立てました。
島根県保育協議会			
保育士キャリアアップ研修【マネジメント】	保育士	1名	・ミドルリーダーとしての役割と知識を学び、保育の質の向上に努めました。
福祉職員キャリアパス「チームリーダー」	係長	1名	・役職職員のリーダー的役割を学び、園内研修計画の実施や職員の育成、指導を担いました。

保育士キャリアアップ 研修【乳児保育】	保育士	0名	・新型コロナ感染防止対策として不参加
保育士キャリアアップ研修【幼児教育】	保育士	0名	・新型コロナ感染防止対策として不参加
保育士等キャリアアップ【障害児保育】	保育士	1名	・障害の理解と支援の方法を学び、障がい児保育を計画し、実践しました。
保育士キャリアアップ研修【保健衛生・安全対策】	保育士	0名	・新型コロナ感染防止対策として不参加
中国地区保育研究大会	全職員	6名	(Web 発信) ・令和5年度の研究発表に向け、関係職員が研究大会の事例発表を視聴することができ、共通意識を持って発表に向け取り組んでいる。
保育者スキルアップ研修会	保育士 調理師	7名	・島根大学医学部小児科教授による、アレルギー対応についての講義は、調理担当も一緒に視聴できたことでアレルギーに対する理解と意識統一に繋がりました。
食育推進研修会	調理師	1名	・離乳準備期から幼児期における口腔機能の発達に応じた食事の提供について学び、園内研修で保育者への周知を図りました。
県所長研修	所長	1名	・コロナ禍を踏まえた保育のあり方や、保育者の心の健康を保つことの大切さを学び、保育所内への反映に努めました
リスクマネジメント研修ⅠⅡ	主任保育士 係長	2名	・「クレーム対応」について、その基本的な考え方や解決方法、交渉力等を学び、保護者対応に努めました。また、予防策及びヒヤリハット等発生時における対応について職員へも周知することができました。

石見養護学校研修会	保育士	7名	・養護学校の川角教諭による、子どもの絵から個々の発達を理解していく学びとなりました。
計画外の研修			
邑南町主催 発達障がい研修	全保育士	11名	・西部島根医療センター 大野貴子氏による、発達障がいの正しい理解と支援の考え方について学びました。
感覚統合研修	主任保育士	1名	・メディアによる子どもへの悪影響について学び、アドバイザーとして子育て支援に努めました
OJT 研修	所長 主任保育士	2名	・職員が成長しようとしている実態やそれを支える立場として再確認しました。

(3) 事業所間研修

実施した研修	対象者	参加者数	実施した内容・成果等
マネジメント研修	所長 係長 主任	5名	・マネジメント研修は、係長にとっても意識付けとなり、部下の育成や意思統一にも繋がりました。
人権研修 ハラスメント研修	全職員	10名	・アンケート実施 ハラスメントを理解しよい職場環境を作り心掛けました。
健康づくり出前講座	全職員	3名	・職員の食について学び、健康維持を図りました。

【地域との関係強化への取組み】

実施事項	実施内容（具体的内容）	KPI
ボランティアの積極的受入れ	・コロナ禍により野草茶やまき餅作り、もちつき等は人数が多いため、受入れはできませんでしたが、お茶会・わらべうた・絵本の読み聞かせ等のボランティアの受け入れは、感染対策を講じて行いました。 ・老人クラブ親和会の皆さんに保育所周辺の除草作業をしていただきました。	

【生産性向上への取組み】

実施事項	実施内容（具体的内容）	KPI
ICT化の導入	補助金の関係でICT化の導入は12月になり、間接業務の時間短縮の（登降所の時間管理、保護者からの欠席連絡、個別連絡帳の記載、保護者への緊急連絡など）取組みが遅れてしまいましたが、問題点を抽出し解決しながら来年度に向けた準備期間となりました。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員数の削減 ・休憩時間の確保 ・直接保育業務の時間の増加 ・残業の減少 以上については、来年度の取組みといたします。

新規加算取得への取組み

取得計画	取得実績	実績評価
障がい児保育事業	発達促進児保育 発達障がい児保育 障がい児保育	・障がい児保育の人員配置に無理があったが、子育て支援員を乳児に配置して対応しました。

【施設整備事業】

実施した施設整備等	実施した内容等
パソコンの更新	・パソコン windows7 のサポートサービス期限が終了したため、windows10 を購入（デスクトップ3台・ノートパソコン1台）しました。
「はいチーズ」の導入（業務効率化システム）	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金対応による、業務改善に伴う ICT化システムの導入を行い、出欠席の確認や連絡ノート機能により、保育所の様子が保護者に伝わりやすくなりました。 ・導入にあたりタブレット（6台）とQRコードリーダーセット（1台）を購入しました。（初期設定済）
絵本や紙芝居の更新と補充	・よく見る絵本は損傷も激しいので、古いものは処分し同じ絵本を補充しました。保育の導入に必要な絵本と紙芝居を購入し保育の充実に役立てました。
収納棚の購入 0, 1 歳児のテーブル、椅子の補充	<ul style="list-style-type: none"> ・0歳児クラスに玩具の収納棚を購入し、環境を整備しました。 ・0歳児の人数増加により、テーブルや身体に合った椅

ベビーベットの更新	子を購入しました。 ・ベビーベットが老朽化し、柵の開閉が甘くなり危険でしたので、更新して安全に使えるようになりました。
メリーゴーランドとパネルハウスの修繕	・腐食が進んでいる個所を修繕し、安全に遊べるようにしました。
テラス防雨防雪仕切り設置工事 物干し取付け	・洗濯機に雪や雨が吹き込むため仕切りを設置しました。幼児クラスに物干しが無い為取付け、布団や毛布が干しやすくなりました。
保護者駐車場の車幅白線の補修	・駐車場の白線を補修し、安全に駐車できるようになりました。
非常ベルの増設	・非常ベルの音が園庭に届かないため、増設しました。避難訓練で聞えるようになり、より早く非難できるようになりました。
電子ピアノの補充	・オルガンの老朽化により更新しました。音も良くなりリトミックなど保育が充実しました。
遊具や玩具の補充と更新	・年齢や発達に合わせた遊具や玩具を購入致しました。2人用三輪車の老朽化に伴い購入致しました。
計画外の施設整備等	実施した内容等
テントの更新 火災探知機の増設	・台風被害により破損したテントを、災害保険で更新しました。 ・防雨防雪仕切り工事に伴い、火災探知機が必要となり、増設しました。

【積立の状況】

(単位：千円)

積立目的	計画	実績
再建設	9,000	3,950
大規模修繕	1,400	600
その他	1,000	450
計	11,400	5,000

収入はほぼ計画通りとなりましたが、人件費が嵩み計画通りの収益を確保する

ことが出来ませんでした。

【感染症・災害への対応への取組み】

大規模災害BCP継続計画の役割分担について職員間で話し合い、土砂災害が起きた時のシミュレーションを行い、マニュアルの見直しを行いました。また、火災や地震の避難訓練を定期的に行い、消防署への通報訓練も年2回行いました。マチコミによる一斉発信を行い、保護者へ連絡が届いているか定期的に確認しました。

IV. 苦情解決（要望含む）の結果について

令和3年度において、以下の苦情が寄せられ、解決を図りました。

【苦情1】

発生日：令和3年6月10日

申立者：ご家族の方

苦情内容：コロナ禍の為、昨年度より行事の内容に制限があり、保護者の参加参観ができなくなっている。その中で保育所での生活する様子や子ども実際の姿が見ることができず分かりにくい。実際の姿を見ることができないことから、保育士が見る子どもの姿と家庭での姿の理解にギャップがあり、担任から子どもの姿を伝えられた時に戸惑いを感じた。コロナ禍においても、何らかの形で子どもの姿を見ることができるようにしてほしい。

処理結果：保育所では連絡帳やお手紙、マチコミ、送迎時の会話などを通して保護者へ情報を発信し共有しているが、文章や写真では発信側と受ける側の相違があります。特に個別に関わりたい子どもに対しては細やかな情報と共有が大切であり、家庭では見られない集団での姿、ルールのある社会、決まりなど遊びの中だけでは伝えられないことを、向き合って保護者へ伝えていくことが大切であると感じました。本件ではコロナ禍ではありますが、制限の中身を見直し最大限の範囲で出来ることを検討し、保護者の方とお子様の情報を共有しながら、お子様の成長を担いたいとお伝えしました。

第三者委員の関与：結果を報告済み

【苦情 2】

発生日：令和4年2月24日

申立者：ご家族の方

苦情内容：コロナ感染休所明け、濃厚接触者として休所を含めた10日間の健康観察が継続中の開所日初日、鼻水や咳の症状がみられたのでお迎えをお願いしたところ、ご両親は仕事で来られず祖母のお迎えでした。お迎えに来られて早々、休所中の大変さや今日からやっと保育所へと思ったら「鼻水や咳くらいで、すぐ迎えにとはどういうことか」といらだった様子で言ってくられました。

処理結果：祖母の大変だった思いを聴かせてもらい、保健所からの指示で健康観察中であること、保護者の方へは文書にて協力していただいていることをお伝えすると、納得されて穏やかな表情になりました。コロナ感染が発症し、1週間の休所となったことは、保護者の方やご家族の皆さんは本当に大変であったと思います。開所について、発症から10日間は健康観察期間で、咳、鼻水、発熱の方はすぐにPCR検査を行っていただくよう保健所からの指示付きであることは、保護者の方へ文書で知らせていましたが、別居の祖母までは伝わっていなかった様です。納得していただき安心しました。

第三者委員の関与：解決結果を報告済み

以上